

球磨川水系河川整備計画

[県管理区間] (原案) (案)

令和4年3月

熊本県

球磨川水系河川整備計画【県管理区間】（原案）（案）

目 次

1. 球磨川水系の概要	1
1.1 流域及び河川の概要	1
1.1.1 流域の概要	1
(1) 中流圏域	2
(2) 人吉圏域	8
(3) 川辺川圏域	13
(4) 上流圏域	18
1.1.2 地形・地質	26
(1) 地形	26
(2) 地質	28
1.1.3 気候・気象	29
1.1.4 自然環境	30
(1) 河川及びその周辺の自然環境	30
(2) 国定公園及び自然公園等	32
1.1.5 歴史・文化	33
1.1.6 土地利用	38
(1) 中流圏域	38
(2) 人吉圏域	38
(3) 川辺川圏域	38
(4) 上流圏域	38
1.1.7 交通	40
1.1.8 人口	41
1.1.9 産業・経済	42
1.1.10 景観・景勝地	44
(1) 中流圏域	45
(2) 人吉圏域	46
(3) 川辺川圏域	47
(4) 上流圏域	48
1.2 治水の沿革	49
1.2.1 洪水の概要	49
(1) 中流圏域	49
(2) 人吉圏域	52
(3) 川辺川圏域	55
(4) 上流圏域	57
1.2.2 治水事業の沿革	58
(1) 中流圏域	58

(2) 人吉圏域・	58
(3) 川辺川圏域・	58
(4) 上流圏域・	58
1.3 利水の沿革・	63
(1) 中流圏域・	63
(2) 人吉圏域・	64
(3) 川辺川圏域・	64
(4) 上流圏域・	64
1.4 河川環境の沿革・	65
2. 球磨川水系の現状と課題・	66
2.1 治水の現状と課題・	66
2.1.1 洪水への対応・	66
(1) 中流圏域・	66
(2) 人吉圏域・	66
(3) 川辺川圏域・	66
(4) 上流圏域・	66
2.1.2 総合的な土砂管理・	67
2.1.3 施設能力を上回る洪水等への対応・	68
2.1.4 維持管理・	68
(1) 河道の維持管理・	68
(2) 河川管理施設の維持管理・	70
2.2 利水の現状と課題・	71
2.2.1 流域の水利用・	71
2.2.2 渇水時の対応・	73
2.3 河川環境の現状と課題・	74
2.3.1 多様な動植物の生息・生育・繁殖環境の保全・創出・	74
(1) 中流圏域・	74
(2) 人吉圏域・	76
(3) 川辺川圏域・	77
(4) 上流圏域・	78
2.3.2 水質の保全・	79
2.3.3 良好な景観の維持・形成・	83
(1) 中流圏域・	83
(2) 人吉圏域・	84
(3) 川辺川圏域・	85
(4) 上流圏域・	86
2.3.4 人と河川の豊かなふれあいの場の確保・	87
(1) 中流圏域・	87
(2) 人吉圏域・	88

(3)川辺川圏域・	89
(4)上流圏域・	89
3. 河川整備計画の対象区間及び期間・	90
3.1 計画対象区間・	92
3.2 計画対象期間・	99
4. 河川整備計画の目標に関する事項・	100
4.1 河川整備の基本理念・	100
4.2 洪水等による災害の発生防止又は軽減に関する目標・	102
4.3 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項・	103
4.4 河川環境の整備と保全に関する事項・	105
5. 河川の整備の実施に関する事項・	105
5.1 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により 設置される河川管理施設等の機能の概要・	105
5.1.1 洪水等による災害の発生防止又は軽減に関する事項・	105
【氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策】・	107
(1)河道の整備・	108
(2)遊水機能を有する土地の確保・保全・	110
(3)集水域における貯留・浸透機能の普及・拡大・	120
(4)土砂・流木対策・	121
(5)内水対策・	122
【被害対象を減少させるための対策】・	122
(1)輪中提・宅地かさ上げ・	122
(2)土地利用の規制・誘導の促進・	123
【被害の軽減、早期復旧・復興のための対策】・	124
(1)円滑な非難に向けた支援・	124
(2)施設の能力を上回る洪水を想定した対策・	124
(3)地震対策・	124
5.1.2 河川環境の整備と保全に関する事項・	125
【河道の整備と良好な環境の保全の両立】・	126
(1)水域における瀬や淵などの良好な環境の保全・	126
(2)水域と陸域が連続し、多様な生物を育む良好な環境の保全・	127
(3)河川における自然の浄化作用の保全・	128
(4)球磨川水系の原風景を形成する良好な景観の保全・	129
(5)人と河川とのふれあい空間の保全・	130
【次世代に継承する良好な環境の確保・創出】・	131
(1)アユやホタル等を育む良好な環境の創出・	131
(2)河川と水路の連続性の確保・	132

(3)濁水が発生しにくい流域環境の確保・	132
(4)人と河川とのふれあい空間の創出・	132
5.2 河川の維持の目的、種類及び施行の場所・	133
5.2.1 球磨川水系の特徴を踏まえた維持管理に関する事項・	133
5.2.2 洪水等による災害の発生防止又は軽減に関する事項・	133
(1)水文・水理調査・	134
(2)河道の測量・調査・	134
(3)河道の維持管理・	134
(4)堤防等の維持管理・	134
(5)ダムの維持管理・	135
(6)総合的な土砂・流木対策・	135
(7)許可工作物の管理・指導・	136
(8)不法行為に対する監督・指導・	136
(9)的確な水防活動の促進・	136
(10)住民の円滑な避難の支援・	136
(11)大規模災害時の対応・	138
5.2.3 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項・	140
(1)平常時の水管理・	141
(2)渇水時の水管理・	141
5.2.4 河川環境の整備と保全に関する事項・	141
(1)河川環境の把握・	141
(2)多様な動植物の生息・生育・繁殖環境の保全・	141
(3)水質の保全・	141
(4)流下物・投棄物の対策・	142
(5)河川空間の適正な利用・	142
(6)安全利用対策・	143
(7)地域との協働による維持管理・	143
6. その他河川整備を総合的に行うために留意すべき事項・	144
6.1 流域のあらゆる関係者との連携・	144
6.2 地域コミュニティの強化への支援・	145
6.3 DX（デジタル・トランスフォーメーション）等の新たな取組みの推進・	146
6.4 水源地域の地域振興・	146
6.5 球磨川流域大学構想との連携・	147
6.6 球磨川流域の持続可能な社会の形成に向けて・	148

1. 球磨川水系の概要

1.1 流域及び河川の概要

1.1.1 流域の概要

球磨川は、その源を熊本県球磨郡銚子笠（標高 1,489m）に発し、免田川、小纏川、川辺川、山田川、万江川等を合わせつつ人吉（球磨）盆地をほぼ西に向かって貫流し、さらに流向を北に転じながら山間の狭窄部を流下し、八代平野に出て、前川、南川を分派して不知火海（八代海）に注ぐ、幹川流路延長 115 km、流域面積 1,880 km² の一級河川です。その流域は主に熊本県南部に位置し、宮崎県および鹿児島県を合わせた九州南部 3 県にまたがる 4 市 5 町 5 村からなっています。

県では、球磨川流域内の 80 河川 428,8km の区間を管理しています。これらの河川とその流域を、本川が中流部の山間狭窄部を流下する『中流圏域』、主要支川万江川流域などで構成される『人吉圏域』、中北部の主要支川川辺川流域で構成される『川辺川圏域』、そして球磨川本川上流と支川流域で構成される『上流圏域』の 4 つの圏域に区分し、地形や周辺の状況などの地域特性を踏まえ、河川の整備、管理を実施します。

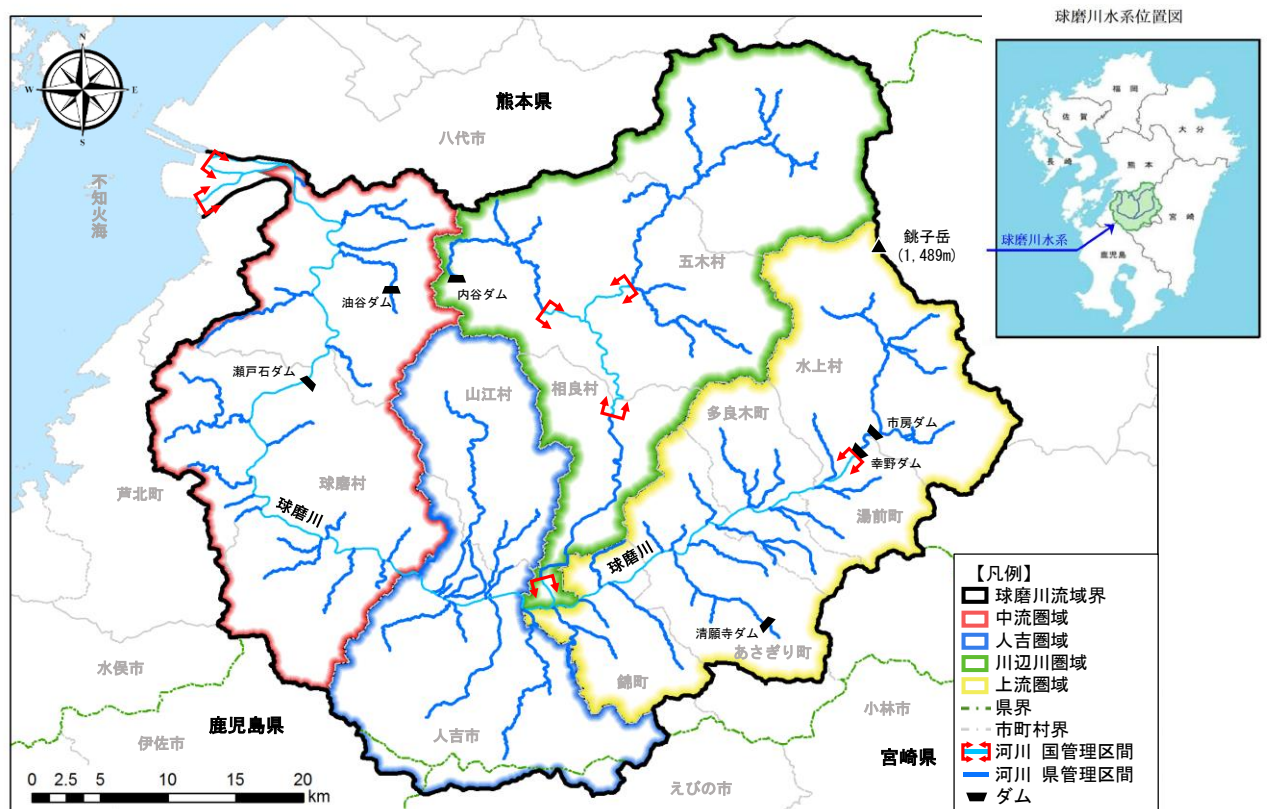


図 1.1 球磨川流域および各圏域位置図

(1) 中流圏域



図 1.2 中流圏域の概要図

1) 古麓川

古麓川は、その源を八代市古麓町付近に発し、球磨川に流入する右支川です。流路延長は 0.9km、流域面積は 0.5km² であり、沿川には家屋が見られます。



写真 1.1 古麓川

2) 深水川

深水川は、その源を八代市坂本町深水付近に発し、走水川などが合流し、球磨川に流入する右支川です。流路延長は 5.0km、流域面積は 23.3km² であり、沿川には家屋や水田が見られます。



写真 1.2 深水川

3) 走水川

走水川は、その源を八代市坂本町深水付近に発し、東から北西方向に流下し、深水川に流入します。流路延長は 3.2km であり、深水川合流部付近には水田が見られます。



写真 1.3 走水川

4) 中谷川

中谷川は、その源を八代市坂本町木々子付近に発し、西方向へ流下し、九州縦貫自動車道と交差し、球磨川に流入する右支川です。流路延長は 4.2km、流域面積は 7.2km² であり、木々子地区、衣領地区、小崎地区、馬廻地区には家屋が見られます。



写真 1.4 中谷川

5) 油谷川

油谷川は、その源を八代市坂本町付近にある肥後峠（805m）に発し、球磨川に流入する右支川です。流路延長は 8.0km、流域面積は 32.8km² であり、沿川には家屋が見られます。急な勾配と豊富な水量が注目され、九州電力の大型純揚水式発電所、油谷ダムが建設されました。このダムは上流の五木村の内谷川に建設された上流ダムと連結し、夜間の余剰電力を利用し、上流ダムに揚水し、昼間にその水で発電を行うもので、最大出力 950 万 KW です。



写真 1.5 油谷川



写真 1.6 油谷ダム

6) 百済木川

百済木川は、その源を八代市坂本町小川内付近に発し、鶴喰川等が合流し、球磨川に流入する左支川です。流路延長は 8.6km、流域面積は 29.3km² であり、沿川には家屋や水田が見られます。



写真 1.7 百済木川

7) 鶴喰川

鶴喰川は、その源を八代市坂本町字鶴喰付近に発し、百済木川に流入します。流路延長は 1.5km であり、沿川には水田が見られます。



写真 1.8 鶴喰川

8) 市之俣川

市之俣川は、その源を八代市坂本町市之俣付近に発し、北方向に流下し、球磨川に流入する右支川です。流路延長は 5.1km、流域面積は 20.3km² であり、沿川には家屋や水田が見られます。



写真 1.9 市之俣川

9) 吉尾川

吉尾川は、その源を芦北町横居木付近に発し、大尼田川などが合流し、球磨川に流入する左支川です。流路延長は 9.7km、流域面積は 38.7km² であり、沿川には家屋や水田が見られます。



写真 1.10 吉尾川

10) 大尼田川

大尼田川は、その源を芦北町松生付近に発し、西から東に流下し、吉尾川に合流します。流路延長は 4.3km であり、沿川には家屋や水田が見られます。



写真 1.11 大尼田川

11) 天月川

天月川は、その源を芦北町上白木付近に発し、湾曲を繰り返しながら球磨川に流入する左支川です。流路延長は 5.4km、流域面積は 15.2km² であり、沿川には家屋や水田が見られます。



写真 1.12 天月川

12) 漆川内川

漆川内川は、その源を芦北町告付近に発し、南から北方向へ流下し、桑沢見付近で北東へと流れを変え、球磨川に流入する左支川です。流路延長は 1.9km、流域面積は 5.9km² であり、沿川には家屋や水田が見られます。



写真 1.13 漆川内川

13) 告川

告川は、その源を芦北町告付^{つげ}近に発し、北方向へ流下し、上告付^{かみつげ}近で東へと流れを変え、球磨川^{くま}に流入する左支川です。流路延長は 1.8km、流域面積は 7.9km² です。沿川には家屋や水田が見られます。



写真 1.14 告川

14) 芋川

芋川^{いも}は、その源を球磨村一勝地^{いっしょうち}付近に発し、西から北方向へ流下し、中津川^{なかつ}、庄本川^{しょうもと}と合流し、球磨川^{くま}に流入する左支川です。流路延長は 4.5km、流域面積は 36.2km² であり、沿川の県道沿いに家屋や水田が見られます。



写真 1.15 芋川

15) 庄本川

庄本川^{しょうもと}は、その源を球磨村一勝地^{いっしょうち}付近に発し、東方向に流下し、芋川^{いも}に流入します。流路延長は 4.3km であり、沿川には家屋や水田が見られます。



写真 1.16 庄本川

16) 那良川

那良川^{なら}は、その源を球磨村一勝地^{いっしょうち}付近に発し、北方向へ流下し、JR 肥薩線^{ならがち}の那良口駅よりやや上流で球磨川^{くま}に流入する左支川です。流路延長は 6.5km、流域面積は 28.9km² であり、沿川には家屋や水田、果樹園が見られます。



写真 1.17 那良川

17) 小川

小川は、その源を球磨村^{わた}付近に発し、南方向へと流下し、途中、境目地区^{さかいめ}、立野地区^{たつの}、糸原地区^{いとばる}、水篠地区^{みずしの}の集落を通り、球磨川^{くま}に流入する右支川です。流路延長は 2.8km、流域面積は 29.8km² であり、沿川には家屋や水田が見られます。



写真 1.18 小川

18) 川内川

川内川は、その源を球磨村^{こうのせ}神瀬付近に発し、南西方向に流下し、球磨川^{くま}に流入する右支川です。流路延長は 3.5km、流域面積は 10.9km² であり、沿川には家屋や水田が見られます。



写真 1.19 川内川

19) 中園川

中園川は、その源を球磨村^{わた}付近に発し、高沢地区^{たかさわ}、坂口地区^{さかぐち}、浦野地区^{うらの}、板坂地区^{いたさか}の集落を通り、球磨川^{くま}に流入する右支川です。流路延長は 2.5km、流域面積は 27.6km² であり、沿川には家屋や水田が見られます。



写真 1.20 中園川

20) 鵜川

鵜川は、その源を球磨村^{さんがうら}三ヶ浦付近に発し、北方向へと流下し、球磨川^{くま}に流入する左支川です。流路延長は 2.1km、流域面積は 21.8km² であり、沿川には家屋や水田が見られます。

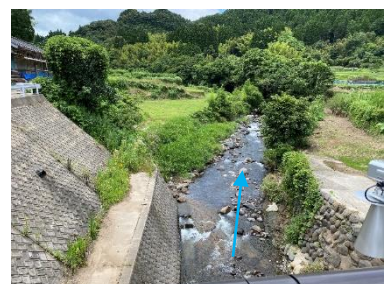
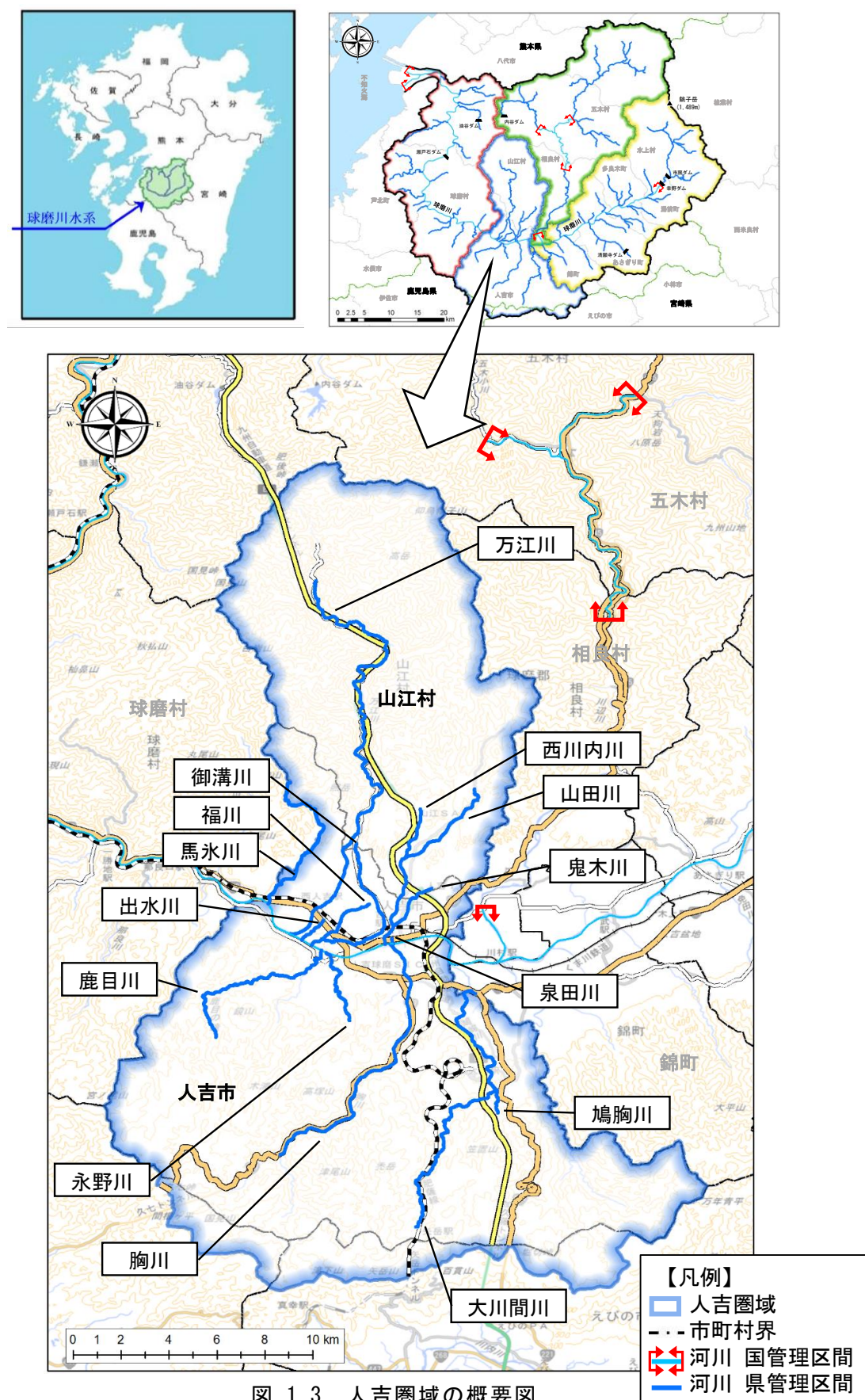


写真 1.21 鵜川

(2) 人吉圏域



1) 馬氷川

馬氷川は、その源を人吉市・山江村・球磨村の市村境付近に発し、山間部を南東方向に流下し、山地を抜けると南西方向に向きを変え、球磨川に流入する右支川です。流路延長は 6.2km、流域面積は 15.1km² であり、沿川には家屋や水田が見られます。



写真 1.22 馬氷川

2) 万江川

万江川は、その源を山江村北部の仰烏帽子山（標高 1,302m）に発し、山間部を流下し、人吉市街地を抜け球磨川に流入する右支川です。流路延長は 21.1km、流域面積は 90.3km² であり、沿川に家屋や水田が見られます。



写真 1.23 万江川

3) 出水川

出水川は、その源を人吉市下林町に発し、南西に流下し、球磨川に流入する右支川です。流路延長は 0.9km、流域面積は 0.6km² であり、沿川には家屋や水田が見られます。



写真 1.24 出水川

4) 福川

福川は、その源を人吉市上林町に発し、南西方向へ流下し、御溝川と合流した後、球磨川に流入する右支川です。流路延長は 5.0km、流域面積は 1.8km² であり、沿線には家屋や水田が見られます。



写真 1.25 福川

5) 鹿目川

鹿目川は、その源を^{かなめ}鉾立山（標高 751m）に発し、山間部を北方向へ流下した後、^{かなめ}鹿目町の集落で北東へ向きを変え、^{くま}球磨川に流入する左支川です。流路延長は 5.9km、流域面積は 23.4km²であり、沿川には家屋や水田が見られます。



写真 1.26 鹿目川

6) 御溝川

御溝川は、人吉市^{おみぞ}上原田町で^{かみほらだ}万江川から取水し、水田の中を南へ流下し、^{ふく}福川へ合流します。流路延長は 6.0km、流域面積は 5.5km²であり、上流部の沿川には水田が見られ、^{やまえ}山江川合流点付近では家屋が見られます。



写真 1.27 御溝川

7) 永野川

永野川は、その源を^{ながの}高塚山（標高 623m）に発し、北西方向へ流下し、^{くま}球磨川へ流入する左支川です。流路延長は 3.6km、流域面積は 12.4km²であり、沿川には家屋や水田が見られます。



写真 1.28 永野川

8) 山田川

山田川は、その源を山江村と相良村の境界をなす山地に発し、南方向に流下し、^{にしごうち}西川内川および^{おにき}鬼木川と合流した後、^{くま}球磨川に流入する右支川です。流路延長は 7.7km、流域面積は 34.3km²であり、中流部の沿川には家屋や農地が見られ、下流部は市街地となっています。



写真 1.29 山田川

9) 鬼木川

鬼木川は、その源を山江村山田乙付近に発し、山江村と人吉市鬼木町の境界を南西方向に流下し、山田川に流入します。流路延長は 2.9km であり、下流部の沿川には家屋が見られ、上中流部は農地が見られます。



写真 1.30 鬼木川

10) 西川内川

西川内川は、その源を山江村山田丁北部付近に発し、南方向へ流下し、山田川に合流します。流路延長は 3.2km であり、沿川には家屋や農地が見られます。



写真 1.31 西川内川

11) 泉田川

泉田川は、その源を人吉市街地に発し、山田川へ合流します。流路延長は 0.09km です。宅地化が進み、地表から流れを確認することはできません。



写真 1.32 泉田川

12) 胸川

胸川は、その源を鹿児島県との県境をなす久七峠に発し、山間部を北東に流下し、北西方向に向きを変え人吉市街地を経て、球磨川に流下する左支川です。流路延長は 11.7km、流域面積は 65.9km² であり、山間部の沿川では家屋や農地が見られ、下流部では市街地となっています。



写真 1.33 胸川

13) 鳩胸川

鳩胸川は、その源を宮崎県との県境をなす堀切峠に発し、山間部を北に流下し、球磨川に流下する左支川です。流路延長は 7.1km、流域面積は 50km² であり、沿川には家屋や農地が見られます。



写真 1.34 鳩胸川

14) 大川間川

大川間川は、その源を宮崎県との県境を越えた矢岳に発し、山間部を北に流下し、大野町集落の手前で北東に向きを変えて、鳩胸川へ合流します。流路延長は 7.8km し、沿川には農地が見られます。



写真 1.35 大川間川

(3) 川辺川圏域



図 1.4 川辺川圏域の概要図

1) 川辺川

川辺川は、その源を雁俣山（標高 1,314m）に発し、葉木川、樅木川、小原川、小鶴川、梶原川、五木小川と合流し、球磨川に流入する右支川です。流路延長は 48.55km、流域面積は 533.6km² です。このうち県管理区間は、柳瀬橋（2k380）から相良村四浦付近（19k050）までの下流区間と、梶原川合流点付近（33k700）から八代市泉町付近（48k550）の上流区間になります。下流区間の沿川は家屋や農地が見られ、上流区間の沿川はほとんどが山林で、家屋も見られます。



写真 1.36 川辺川下流区間



写真 1.37 川辺川上流区間

2) 五木小川

五木小川は、その源を五木村と八代市の境界に発し、南東方向に流下し、飯干川、登谷川等と合流し、川辺川に流入します。流路延長は 19.3km で、県管理区間は、国管理区間上流端（3/500）から五木村内谷付近（19k300）までの区間です。沿川はほとんどが山林で、家屋も見られます。



写真 1.38 五木小川

3) 飯干川

飯干川は、その源を六本杉山（標高 1,144m）に発し、南方向に流下し、五木小川に流入します。流路延長は 2.7km であり、沿川はほとんどが山林で、家屋も見られます。



写真 1.39 飯干川

4) 登谷川

登谷川は、その源を国見岳に発し、南方向に流下し、五木小川に流入します。流路延長は 3.0km であり、沿川はほとんどが山林で、家屋も見られます。



写真 1.40 登谷川

5) 梶原川

梶原川は、その源を三方山（標高 1,577m）に発し、北西方向に流下し、日当川、一の股川、入鴨川等と合流し、川辺川国管理区間に流入します。流路延長は 10.1km であり、沿川はほとんどが山林で、家屋も見られます。



写真 1.41 梶原川

6) 入鴨川

入鴨川は、その源を蕨野山（標高 1,438m）に発し、西方向に流下し、梶原川に流入します。流路延長は 4.4km であり、沿川はほとんどが山林で、家屋も見られます。



写真 1.42 入鴨川

7) 一の股川

一の股川は、その源を広貝山（標高 1,186m）に発し、北方向に流下し、梶原川に流入します。流路延長は 3.3km であり、沿川はほとんどが山林で、家屋も見られます。



写真 1.43 一の股川

8) 日当川

日当川は、その源を五木村と多良木町の境界付近に発し、北西方向に流下し、梶原川に流入します。流路延長は 2.7km であり、沿川はほとんどが山林で、家屋も見られます。



写真 1.44 日当川

9) 小鶴川

小鶴川は、その源を平石山（標高 1,130m）に発し、東方向に流下し、川辺川に流入します。流路延長は 6.0km であり、沿川はほとんどが山林で、家屋も見られます。



写真 1.45 小鶴川

10) 小原川

小原川は、その源を八代市と美里町の境界付近に発し、南方向に流下し、川辺川に流入します。流路延長は 4.3km であり、沿川はほとんどが山林で、家屋も見られます。



写真 1.46 小原川

11) 樅木川

樅木川は、その源を国見岳に発し、北西方向に流下し、にがごべ川、山の津川、さかいの谷川等と合流し、国道 445 号付近で川辺川に流入する左支川です。流路延長は 5.6km であり、沿川はほとんどが山林で、家屋も見られます。



写真 1.47 樅木川

12) さかいの谷川

さかいの谷川は、その源を八代市内に発し、南方向へ流下し、樅木川に流入します。流路延長は 1.1km であり、沿川はほとんどが山林で、家屋も見られます。



写真 1.48 さかいの谷川

13) 山の津川

山の津川は、その源を上福根山（標高 1,646m）に発し、北方向に流下し、樅木川に流入します。流路延長は 1.3km であり、沿川はほとんどが山林で、家屋も見られます。



写真 1.49 山の津川

14) にがこべ川

にがこべ川は、その源を白鳥山（標高 1,639m）に発し、北方向に流下し、樅木川に流入します。流路延長は 0.7km であり、沿川はほとんどが山林で、家屋も見られます。



写真 1.50 にがこべ川

15) 葉木川

葉木川は、その源を京丈山（標高 1,473m）に発し、南方向に流下し、川辺川に流入します。流路延長は 3.0km であり、沿川はほとんどが山林で、家屋も見られます。



写真 1.51 葉木川

(4) 上流圏域

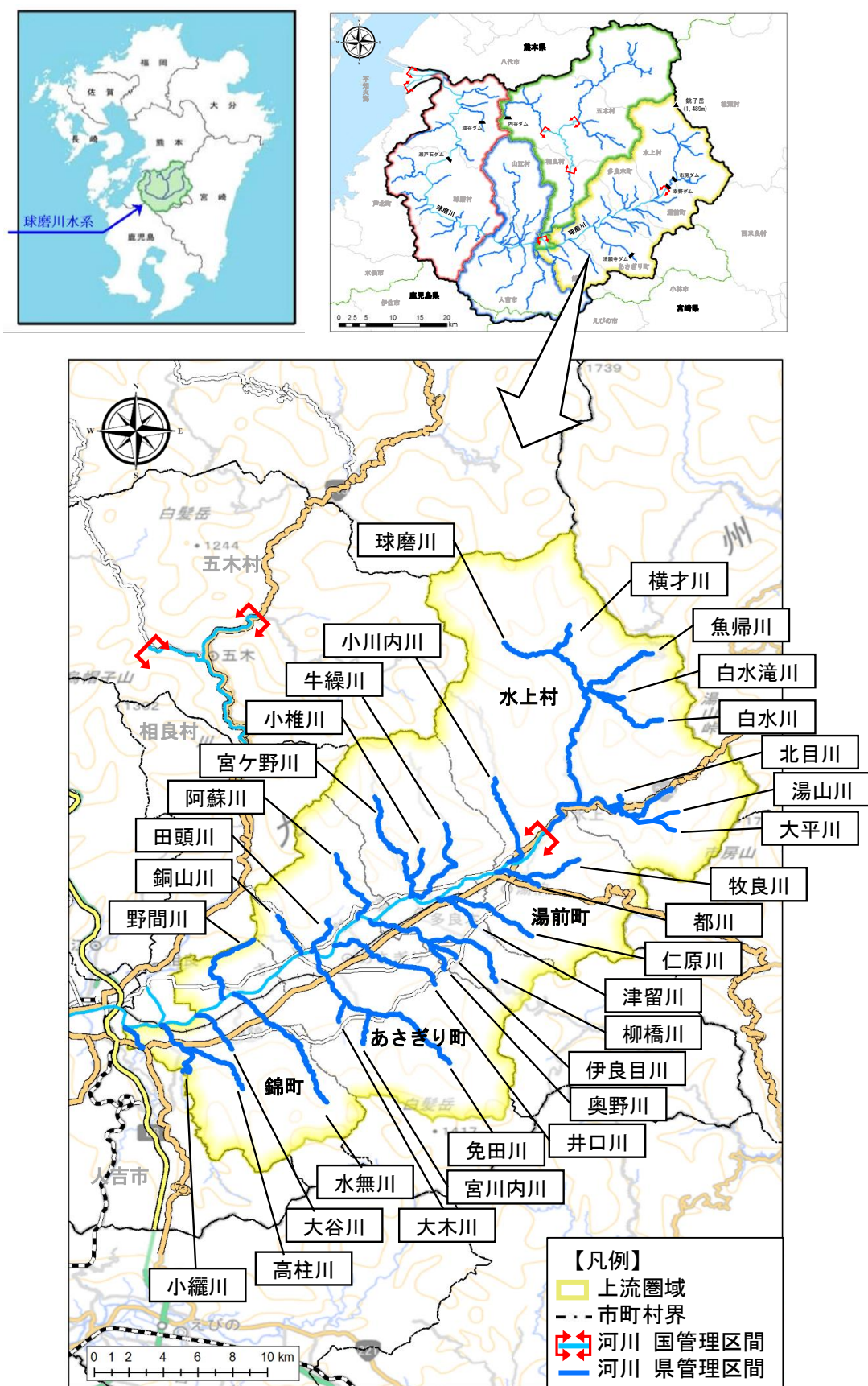


図 1.5 上流圏域の概要図

1) 球磨川

球磨川は、その源を銚子笠（標高 1,489m）に発し、山間部を経て、横才川、白水川と合流した後、南方向に流下し、市房ダムに流入し、人吉（球磨）盆地、山間の狭窄部、八代平野を経て不知火海（八代海）に注ぎます。県管理区間は、幸野ダムから横才川合流点より上流までの区間です。県管理区間の流路延長は 22.1km、流域面積は 155.7km² であり、沿川は急峻な山地であり家屋も見られます。



写真 1.52 球磨川
（市房ダム上流）

2) 小纒川

小纒川は、その源を太平山（標高 1,118m）の南西に発し、人吉市と錦町との堺の溪谷を北方向に流下した後に、下流部の平地で高柱川と合流し、錦町市街地の南西部を経て、球磨川に流入する左支川です。流路延長は 7.1km、流域面積は 52.2km² であり、沿川には家屋や農地が見られます。



写真 1.53 小纒川

3) 高柱川

高柱川は、その源を錦町南部の丘陵付近より発し、北西方向に流下し、小纒川に流入します。流路延長は 4.2km であり、沿川には家屋や農地が見られます。



写真 1.54 高柱川

4) 大谷川

大谷川は、その源を錦町南部の丘陵付近より発し、北西方向に流下し、球磨川に流入する左支川です。流路延長は 3.2km、流域面積は 4.1km² であり、沿川には家屋や農地が見られます。



写真 1.55 大谷川

5) 野間川

野間川は、その源を錦町北端部の丘陵付近より発し、東南方向に流下し、平野部で球磨川に流入する右支川です。流路延長は 6.3km、流域面積は 11.8km² であり、沿川には家屋や水田が見られます。



写真 1.56 野間川

6) 水無川

水無川は、その源を錦町南部の丘陵付近より発し、北西方向に流下し、球磨川に流入する左支川です。流路延長は 8.5km、流域面積は 20.6km² であり、沿川には家屋や農地が見られます。



写真 1.57 水無川

7) 銅山川

銅山川は、その源をあさぎり町北部の山地より発し、南西方向に流下し、球磨川に流入する右支川です。流路延長は 2.8km、流域面積は 9.1km² であり、沿川には家屋や水田が見られます。



写真 1.58 銅山川

8) 田頭川

田頭川は、その源をあさぎり町北部の丘陵付近より発し、南東方向へ流下し、球磨川に流入する右支川です。流路延長は 3.7km、流域面積は 7.8km² であり、沿川には家屋や水田が見られます。



写真 1.59 田頭川

9) 免田川

免田川は、その源を小白髪岳（標高 1,183m）に発し、上流の清願寺ダム（県営農地防災ダム）を経て北西方向へ流下し、あさぎり町市街地の南西部を通過して球磨川に流入する左支川です。流路延長は 10.6km、流域面積は 44.0km² であり、沿川には家屋や農地が見られます。



写真 1.60 免田川

10) 大木川

大木川は、その源をあさぎり町南部の^{おおき}白髪岳（標高 1,417m）に発し、北方向へ流下し^{めんだ}免田川に流入します。流路延長は 2.6km であり、沿川には家屋や水田が見られます。



写真 1.61 大木川

11) 宮川内川

宮川内川は、その源をあさぎり町南部の^{しろがだけ}白髪岳（標高 1,417m）に発し、北方向へ流下し^{めんだ}免田川に流入します。流路延長は 3.2km であり、沿川には家屋や水田が見られます。



写真 1.62 宮川内川

12) 井口川

井口川は、その源をあさぎり町南部の^{くろばるやま}黒原山（標高 1,017m）の南西に発し、北西方向へ流下し、あさぎり町市街地の南西部を経て^{くま}球磨川に流入する左支川です。流路延長は 6.2km、流域面積は 14.0km² であり、沿川には家屋や水田が見られます。



写真 1.63 井口川

13) 阿蘇川

阿蘇川は、その源をあさぎり町北部より発し、南東方向へ流下し、^{くま}球磨川に流入する右支川です。流路延長は 6.3km、流域面積は 21.0km² であり、沿川には家屋や農地が見られます。



写真 1.64 阿蘇川

14) 柳橋川

柳橋川は、その源を^{くろばるやま}黒原山の（標高 1,017m）に発し、南方向へ流下した後、平地で^{おくの}奥野川と合流し^{くま}球磨川に流入する左支川です。流路延長は 9.5km、流域面積は 21.4km² であり、沿川には家屋や農地が見られます。



写真 1.65 柳橋川

15) 奥野川

奥野川は、その源を多良木町の南部黒原山（標高 1,017m）に発し、北西方向へ流下し、柳橋川に流入します。流路延長は 3.3km であり、沿川には家屋や農地が見られます。



写真 1.66 奥野川

16) 伊良目川

伊良目川は、その源を多良木町の南部付近より発し、北西方向へ流下し、奥野川に流入します。流路延長は 3.4km であり、沿川には家屋や農地が見られます。



写真 1.67 伊良目川

17) 小椎川

小椎川は、その源を多良木町の北部の広貝山（標高 1,190m）南部に発し、南方向へ流下し、球磨川に流入する右支川です。流路延長は 3.2km、流域面積は 31.7km² であり、沿川には家屋や農地が見られます。



写真 1.68 小椎川

18) 牛繰川

牛繰川は、その源を多良木町の北部の広貝山（標高 1,190m）南部に発し、南方向へ流下し、球磨川に流入する右支川です。流路延長は 6.7km、流域面積は 14.1km² であり、沿川には家屋や農地が見られます。



写真 1.69 牛繰川

19) 宮ヶ野川

宮ヶ野川は、その源を多良木北部の広貝山（標高 1,190m）南部に発し、南方向へ流下し、小椎川に流入します。流路延長は 6.3km であり、沿川は家屋や農地が見られます。



写真 1.70 宮ヶ野川

20) 仁原川

仁原川は、その源を湯前町南部の花立山（標高 1,105m）に発し、北西方向へ流下し、多良木町を経て、球磨川に流入する左支川です。流路延長は 4.7km、流域面積は 18.0km²であり、沿川には家屋や農地が見られます。



写真 1.71 仁原川

21) 津留川

津留川は、その源を多良木町南部の花立山（標高 1,105m）に発し、北西方向へ流下し、仁原川に流入する河川です。流路延長は 3.7km であり、沿川には家屋や農地が見られます。



写真 1.72 津留川

22) 都川

都川は、その源を牧良山（標高 991m）の南に発し、東方向に流下し、牧良川と合流し、湯前町市街地の北部を経て、球磨川に流入する左支川です。流路延長は 1.6km、流域面積は 26.0km²であり、沿川には家屋や農地が見られます。



写真 1.73 都川

23) 牧良川

牧良川は、その源を湯前町東部の牧良山（標高 991m）に発し、西方向へ流下し、都川に流入します。流路延長は 2.5km であり、沿川は家屋や農地が見られます。

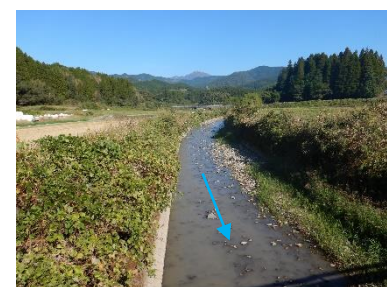


写真 1.74 牧良川

24) 小川内川

小川内川は、その源を三方山（標高 1,236m）の南に発し、南方向に流下し、平野部を経て球磨川に流入する右支川です。流路延長は 7.2km、流域面積は 36.7km²であり、沿川には家屋や農地が見られます。



写真 1.75 小川内川

25) 湯山川

湯山川は、その源を水上村東部の湯山峠に発し、南西方向へ流下し、市房ダムの湛水域で球磨川に流入します。流路延長は 6.5km、流域面積は 48.9km²であり、沿川には家屋や農地が見られます。



写真 1.76 湯山川

26) 北目川

北目川は、その源を水上村東部の江代山（標高 1,607m）に発し、南西方向へ流下し、湯山川に流入します。流路延長は 1.3km であり、沿川には家屋や農地が見られます。



写真 1.77 北目川

27) 大平川

大平川は、その源を水上村東部に発し、北西方向へ流下し、湯山川に流入します。流路延長は 3.4km であり、沿川には家屋や農地が見られます。



写真 1.78 大平川

28) 白水滝川

白水滝川は、その源を水上村北部の江代山（標高 1,607m）に発し、西方向へ流下し、白水川に流入します。流路延長は 2.5km であり、沿川はほとんどが山林です。



写真 1.79 白水滝川

29) 魚帰川

魚帰川は、その源を水上村北部の小崎峠に発し、西方向へ流下し、白水川に流入します。流路延長は 3.7km であり、沿川には家屋や農地が見られます。



写真 1.80 魚帰川

30) 白水川

白水川は、その源を水上村北部の江代山（標高 1,607m）に発し、西方向へ流下し、球磨川に流入する左支川です。流路延長は 4.0km、流域面積は 23.1km² であり、沿川はほとんどが山林です。



写真 1.81 白水川

31) 横才川

横才川は、その源を水上村北部の銚子笠に発し、山間部を経て南方向に流下し、球磨川に流入する左支川です。流路延長は 2.0km、流域面積は 21.1km² であり、沿川はほとんどが山林です。



写真 1.82 横才川

1.1.2 地形・地質

(1) 地形

球磨川流域は、九州山地に位置し、周囲を急峻な山々に囲まれており、市房ダムから^{わた}渡地点に至るまでの上流部は、人吉（球磨）盆地が形成され、渡地点から^{ようはい}遥拝堰に至る中流部は、山間狭窄部となっています。また、遥拝堰から河口に至る下流部は扇状地となっており、河口では干満の影響を受け、干潟が形成されています。

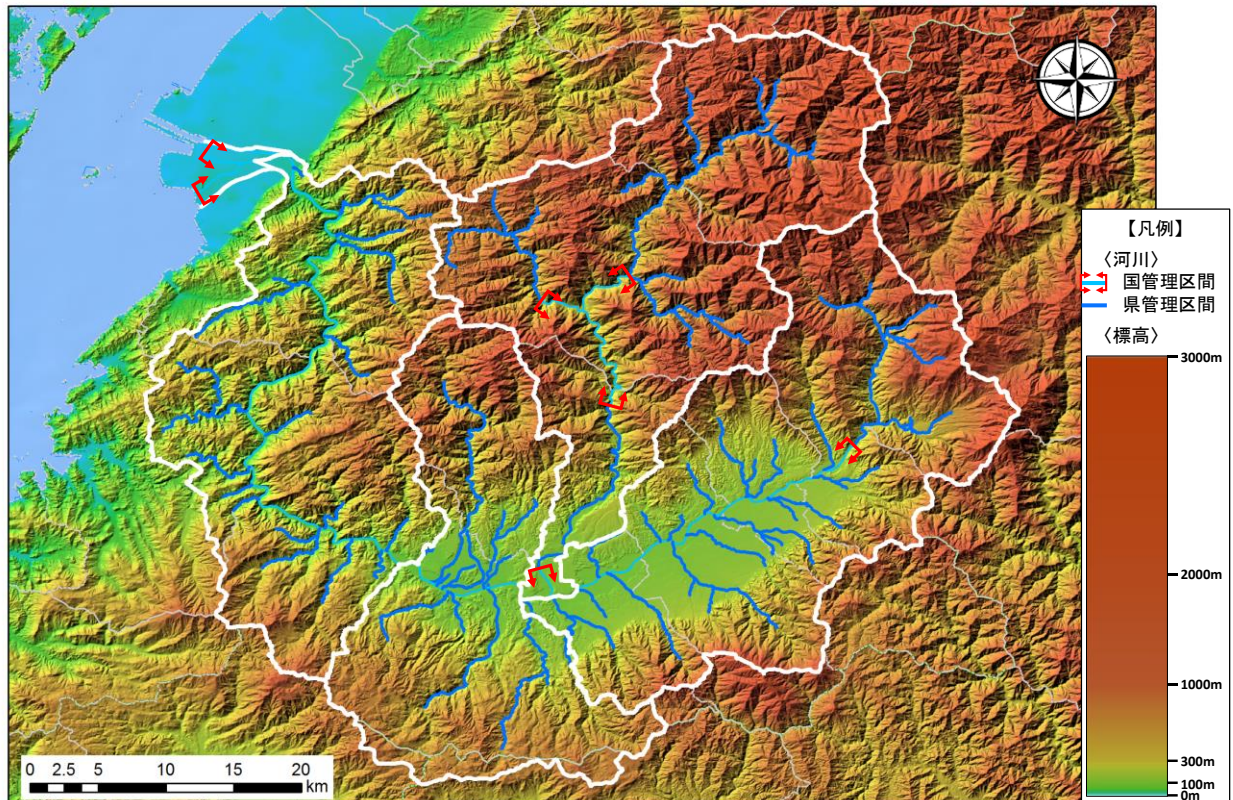


図 1.6 球磨川流域地形図

出典：地理院地図 色別標高図

1) 中流圏域

『中流圏域』は、球磨川流域の西部に位置し、急峻な地形をなしており、平坦地は川沿いにごくわずかしき存在しません。

2) 人吉圏域

『人吉圏域』の中央部は、球磨川上流部に広がる人吉（球磨）盆地の西端にあたり、低地やローム台地が分布しています。盆地の北側は九州山地にあたり、急峻な山地が連なっています。盆地の南側はややなだらかな小～中起伏火山地が分布しています。

3) 川辺川圏域

『川辺川圏域』は、球磨川流域の中北部に位置しており、北部は九州山地の山々に囲まれ、人吉（球磨）盆地で球磨川に合流しています。河川は急勾配であり、地形は、約9割を山地が占め、平地部の割合は1割以下となっています。

4) 上流圏域

『上流圏域』は、球磨川流域の東部に位置しており、球磨川が人吉（球磨）盆地を西方へ流下しています。この盆地は湖沼堆積物、火山性堆積物、河川の氾濫による堆積物等が盆地を埋めて平坦な地形を形成しています。

(2) 地質

流域の地質は、銚子笠から球磨川中流部の大坂間を結ぶ^{おおさかま}仏像構造線が位置しており、これを境に、北側は^{ちちぶ}秩父帯南帯と呼ばれ、中・古生代の砂岩、粘板岩等からなっており、その南縁部に石灰岩が分布しています。構造線南側は^{しまんとろい}四万十壘層群と称される、中生代の砂岩、粘板岩等が人吉（球磨）盆地を除いて広く分布しており、盆地部には河川の氾濫や火砕流による堆積物が存在しています。

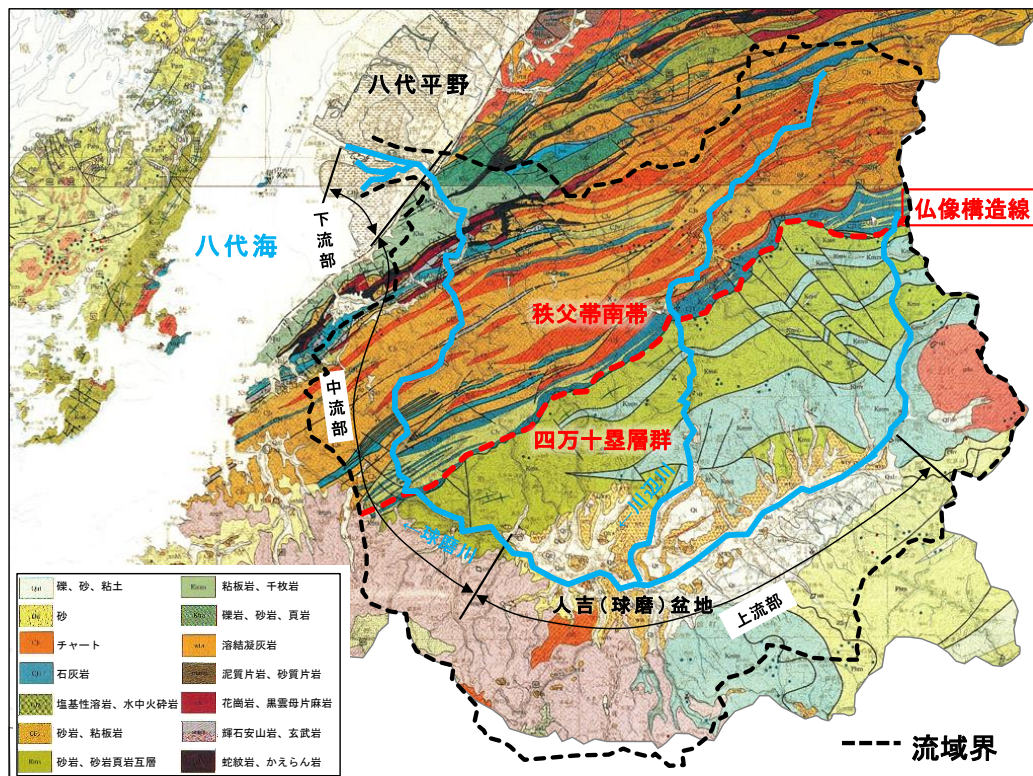


図 1.7 球磨川流域地質図

出典：九州地方土木地質図（20 万分の 1）（（財）国土開発技術センター）昭和 60 年